

## 2. 調査報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしい生活の継続を支援するという、ホームの理念が明確になっており、職員が一体となって理念の実現に向かって取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、理念を唱和するなど、理念の実現を目指したサービスの提供が行なえるようホーム一体となった取組みを行なっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りへの参加や敬老会への参加、地元幼稚園児とのホーム内での交流、近隣住民との玄関先での会話など地域交流を積極的に進めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果については、改善につながるようミーティングで話し合いを行なうなど、改善へ向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を地域交流や、ホームに対する理解を得る機会として積極的に活用している。結果として、ホームに対して地域からの理解を得られるようになってきた。</p>		<p>家族から出てきたテーマ（要望）についての話し合いや、曜日を変えて開催するなどについては早期の実現を望まれる。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>メールや訪庁などの機会に、担当者との情報交換や要望を伝えたりしている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「コマクサ通信」というホームだよりを発行したり、来訪時に家族に対して、日常の暮らしの様子を伝えたり、ホームから積極的に情報提供を行なっている。</p> <p>ホーム内には、行事などの写真をホーム内に展示し、暮らしぶりを紹介している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時に直接要望などを聞き出しているが、積極的に意見を述べる人が少なく、アンケート調査を行うなどで家族の意見を聞きだすような努力を行なっている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は必要に応じて行なうこともあるが、その際には、利用者の不安を招かないような配慮をしている。</p>		<p>異動もしくは退職時には、家族からも知らせて欲しいとの声もあり、家族への周知も行なうことが望ましい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成には大変力を注いでいることは評価できる。 外部研修への積極的な参加のほか、ホームでの「ちょっといいこと」を日誌に記載させ、職員が気づく意識を高めさせたり、発表による表現スキルを高めさせるなどの研修を継続的に行なっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊平区内のグループホームや、関連ホームとの情報交換、合同での勉強会開催などの交流を行なっている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム入所時には、家族から生活の継続につながるような情報を面談等でよく聞き出し、特に入所時の不安定な状況に陥りやすいときにこれを活かしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の自立支援を行なう、個々のニーズに応じていくという立場に立ち、一方的に介護を行なうことはせず、お互いに支えあいながら支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>出来るだけ本人の意思を尊重し、職員は可能な限り対応しようという意識に立ち、ケアを行なっている。</p> <p>また職員はプロであり、どんな状態の利用者に対しても同じ気持ちで接するように徹底されている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の情報、家族の意向などを、アセスメント、職員会議などにおいて十分検討の上、介護計画が策定されている。計画の内容は、非常に具体的になっており、日常のケアサービスに活かしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直し時には、モニタリング、カンファレンスによって十分その効果を検討の上、見直しを行っている。より具体的に、継続的に支援が行なうことができるような計画が作成されている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>認知症の相談を受けたときには、専門的立場に立ち説明を行ったり、入所後、家族が宿泊希望する場合には、宿泊できるような機能を備えている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力病院との連携により、必要な時に診療が受けられる体制ができている。また、緊急時など必要に応じて往診も行なわれている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>個別対応となるが、重度化への対応は、家族の同意のもと、家族、医療機関との連携を密にした対応を検討している。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>職員ひとりひとりが、利用者のプライバシーを損なうような対応ではなく、利用者に配慮した声かけ、さりげないサポートに徹している。食事の準備など、職員、利用者がお互いに協力仕合いながら生活している様子も窺えた。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の意思を尊重し、利用者が希望することには職員はできるだけ応えられるような支援を行なっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、準備から利用者にも加わってもらい、料理の味付けは利用者からアドバイスもらうなど、お互い協力仕合いながら作っている。食事の時間も、季節感のあるメニューを取り入れるなどの工夫も行なっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、入浴したい日、時間などタイミングを合わせて支援を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の得意分野を見出し、その分野で発揮できる役割を与えるなどホームでの存在感を与えたり、楽しみごとの実現に向けた支援が行なわれている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の機会をできるだけ多く持てるよう、近所のスーパーへ買い物に出かけたり、公園に散歩を行うなどの支援を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、全面道路が通行量が多く、安全面を優先し、家族の了解のもと鍵をかけていることがあるが、本人が希望する場合は、外出支援を行なっている。		将来的には、鍵をかけなくとも利用者が外出しようとするときに、職員が気づいて、すぐ対応することができるような体制の構築が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>定期的に避難訓練を実施している。町内会・運営推進会議への働きかけ、警察の指導など安全管理には力を入れている。救急マニュアルを分かり易い手順書の形式にて作成していることも評価できる。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士の指導のもとバランスの取れた食事を提供している。水分量は、一覧表でチェックを行なっている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>なじみのある古い家具、時計、オルガンなどがホーム内に置かれており、懐かしさを感じさせる雰囲気を出している。また、写真、書道、手芸品などがあちこちに飾られており、家庭的な雰囲気も感じられる。身体機能に応じたソファ、高さの違う椅子も用意されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は利用者個々のなじみがあり、使い慣れた物が持ち込まれている。また、掲示物など自由に壁に貼っている。</p>		

 は、重点項目。